

中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

法人名等		目標の内容・実績			
【法人名】		会員数(個人・法人)	ボランティア実働者数	自然観察会参加者数	寄付金・会費収入額
		<p>公益財団法人 さいたま緑のトラスト協会</p>	<p>県内14か所のトラスト保全地で保全活動を行う、トラスト協会に登録するボランティアスタッフ数</p>	<p>トラスト保全地を会場として開催する自然に親しむ会の参加者数</p>	<p>トラスト協会に対する寄付金及びトラスト協会会員の会費</p>
【中期経営計画の期間】 令和4年度～令和6年度	目標	<p>【令和4年度目標】 1,470人</p>	<p>【令和4年度目標】 460人</p>	<p>【令和4年度目標】 400人</p>	<p>【令和4年度目標】 525万円</p>
		<p>【令和5年度目標】 1,490人</p>	<p>【令和5年度目標】 470人</p>	<p>【令和5年度目標】 410人</p>	<p>【令和5年度目標】 546万円</p>
		<p>【令和6年度目標】 1,510人</p>	<p>【令和6年度目標】 480人</p>	<p>【令和6年度目標】 420人</p>	<p>【令和6年度目標】 568万円</p>
	各年度の実績	<p>【令和4年度実績】 1,447人</p> <p>【令和5年度実績】 1,379人</p> <p>【令和6年度実績】 1,387人</p>	<p>【令和4年度実績】 442人</p> <p>【令和5年度実績】 409人</p> <p>【令和6年度実績】 389人</p>	<p>【令和4年度実績】 314人 (※13回の計画のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため2回が中止)</p> <p>【令和5年度実績】 348人 (※13回のうち、3回は新型コロナウイルス感染拡大防止等の規模を縮小して実施)</p> <p>【令和6年度実績】 374人</p>	<p>【令和4年度実績】 505万円</p> <p>【令和5年度実績】 429万円</p> <p>【令和6年度実績】 481万円</p>
	法人による自己評価	<p>・ 当協会の公益目的事業であるトラスト運動の普及啓発事業、トラスト保全地の保全管理・運営事業及びトラスト基金の募金・広報活動事業については、いずれも当協会会員であるボランティアスタッフにより事業が展開されているため、会員の確保は必要不可欠である。</p> <p>・ また、会費収入は、当協会の主要な自主財源であり、財源確保の観点からも会員の確保は重要である。</p> <p>・ 令和6年度は前年度に比較し会員数は若干増加したが、目標に届かない状況となっている。</p> <p>・ 会員の確保は、当協会の事業や経営に直接影響を及ぼす最重要事項であるため、各保全地の特長を活かした魅力的なイベントの開催(13回以上)、更には保全管理活動の楽しさを体験いただく「保全体験」の受入れ等を積極的に行うとともに、協会ホームページや広報紙(グリーンアルファ)の内容の充実、トラスト保全地近隣の市町を中心とした広報活動の充実等を図ることにより、会員数の増加に努めている。</p>	<p>・ 当協会の事業は、ボランティアスタッフにより実施されていることから、ボランティアスタッフの継続的な確保は、当協会の最重要課題となっている。</p> <p>・ このため、各保全地における自然観察会の開催や地元イベントへの参加等において新規勧誘に努めるとともに、入会後は、魅力的な研修会等を実施することにより、ボランティアとしてのスキルアップと楽しめる活動機会の確保を図っている。</p> <p>・ 令和6年度の実績は目標に届かない状況となっているが、ボランティアスタッフの実働者数は減少傾向にあり、平均年齢も約70歳と、年々、高齢化が進んでいることが大きな課題となっている。</p> <p>・ 今後は、若者や現役世代にも魅力的なイベント等の開催を検討するとともに、企業や大学等と連携して社員や学生の保全活動等を受け入れる取り組みも進め、ボランティアスタッフの充実を図っていきたい。</p>	<p>・ 当協会では、各トラスト保全地を会場とする自然観察会をトラスト運動への理解促進と会員勧誘の機会ととらえ、重点事業として実施している。</p> <p>・ 令和6年度は、「自然に親しむ会」を13回計画したところ、天候不順で1回中止となり、の12回の開催となった。13回開催できた令和5年度に比較すると、参加人数は増加しているものの目標には届かなかった。</p> <p>・ 自然観察会は、タケノコ掘りやシイタケのコマ打ち等と組み合わせた体験型イベントに人気があるが、いずれも保全地面積や対応するボランティアスタッフの人数に限りがあることから、通常は抽選により参加者を絞らざるを得ない状況にある。</p> <p>・ 今後も、各保全地の特長を活かした魅力的なイベント開催を工夫するとともに、広報にも力を入れ、自然観察会参加者数の増加を図っていききたい。</p>	<p>・ 当協会では収益事業を行っていないため、自主財源は、企業や個人からの寄付金と会員からの会費収入のみとなっている。</p> <p>・ 令和6年度は、寄付金収入及び会員費収入とも若干増加したが、目標には届かなかった。</p> <p>・ 今後は、トラスト保全地近隣の企業や大学等に目的を絞った保全体験活動の受入れ等と呼び掛けるなどして、新規会員を獲得し、会費収入の増額を図っていききたい。</p> <p>・ 寄付金については、県が運営する「トラスト基金」や「みどりの基金」と競合してしまうため、当協会への寄付金は集まりづらい状況にあるが、協会の寄附金収入の大半を占める企業及び団体に対する働き掛けとして、法人団体の会合等で緑のトラスト運動への協力要請(3か所以上)を積極的に行うなど、引き続き、ターゲットを絞った呼びかけ等を行い、協会への寄付金の増加を図っていききたい。</p>